

研修報告書 No. 5

所 属： 昭和医科大学病院

研修先： 土佐市民病院

この度、土佐市民病院で1ヶ月間の地域医療研修を行いましたので報告します。

病院では内科外来、小児科外来、外科外来、救急外来、病棟業務を経験することができました。

内科外来では、上気道炎、急性胃腸炎、心不全、偽痛風、伝染性紅斑など様々な疾患を診る機会がありました。初診の患者さんに対して、医療面接から検査、診断、治療までを主体的に考えることが求められ、自身の研修病院ではこのような機会が無かったため非常に勉強になりました。患者さんの訴えや医療面接から適切な検査を選択し、その結果に応じて外来でフォローするか入院が必要かを判断し、治療方針を立てるというプロセスを何度も経験し、毎日が学びの連続でした。また、生活習慣病に関する指導も経験し、患者さんの生活習慣を見直しながら改善策を提案することの難しさを学びました。実際に検診で肝機能異常や高血圧を指摘された患者さんに対し禁酒等の生活習慣を指導する機会がありましたが、次回外来でフォローした際に生活習慣が全く変わっておらず、自身の説明力の未熟さを痛感しました。内科外来を通じて患者さんに適切なアドバイスを行うためには、自分自身が正しい知識を持つことが不可欠であることを改めて感じました。また、患者さんとのコミュニケーションの大切さを再認識し、診察時には不安を抱える患者さんに寄り添い、それを解消することの大切さ意識するようになりました。

小児科外来では症状から鑑別診断を考え、それに対する適切な対応を検討する力を養いました。また、親御さんとのコミュニケーションの大切さも実感しました。

外科外来では、創傷の評価や適切なフォローの仕方だけでなく、乳癌や甲状腺疾患の既往のある患者さんを診察する機会が多く、医療面接で聞くべき症状や検査を学ぶことができました。また、消化器外科の手術に参加する機会もあり、腹腔鏡手術のカメラ操作や縫合、術後管理を経験することができました。内科診療では診る機会がない様々な経験を積むことができました。

救急外来ではCPAやショック状態の患者さんの対応を経験し、指導医のサポートのもと、冷静かつ迅速な対応を心掛けました。初期対応に戸惑うこともありましたが、非常に勉強になりました。

病棟業務では、主に自分の外来で入院した患者さんを担当しました。主治医として患者さんの経過を継続的に観察し、上級医と相談しながら検査や治療方針を決定しました。患者さんの状態に応じた最適な対応を考え、退院に向けた支援を行う中で、診療における責任感と患者さんとの信頼関係の重要性を強く感じました。

また、自分が循環器内科に興味があったことから、心不全患者さんの管理やカテーテル検査、心臓超音波検査の指導も受けることができました。自身の志望科に合わせた研修が可能である点も、この病院の大きな魅力だと思います。

土佐市民病院での研修を通して、地域医療についても考えるいい機会になったと思います。高知県では高度な医療を受けるには高知市内への移動が必要となるため、東京とは異なる医療環境の違いを実感しました。医師不足や高齢化の影響を受ける中で、地域医療の持続には多職種との連携が不可欠であると感じました。今後、医師としてどのように地域医療に貢献できるかを真剣に考えるきっかけとなりました。

来年から専攻医になりますが、研修医の間にこのような環境で働くことができ、本当に良かったと思いますし、非常に有意義な時間を過ごすことができました。1ヶ月間の高知での生活を通して、自然の豊かさや美味しい食事、地元の方々の温かさを感じました。このような貴重な研修の機会をいただいたことに、心より感謝申し上げます。この経験を今後の医師人生に活かしていきたいと思っています。